

日本で唯一の ニッポンサイ全身骨格

佐野市を代表する化石として忘れてはならないのがニッポンサイです。日本で唯一全身骨格がそろった状態で見つかった貴重な化石です。

歯の状態や骨の成長線などから、まだ幼獣だったと考えられています。石灰岩に発達する割れ目の堆積物中から見つかりました。スマトラサイに近い種と考えられていましたが、最近の研究ではヨーロッパやアジアに生息しているメルクサイとの関係が指摘されています。

日本で初めて発見 ヤベオオツノジカ化石

ヤベオオツノジカは日本固有のオオツノジカの仲間で、日本で初めてヤベオオツノジカの化石が発見されたのは葛生石灰岩地域です。大きな角が特徴で、肩の高さが1.8メートルもあります。化石館では実物大の骨格標本を間近で見ることができ、その大きさを実感できます。化石館の展示室はコンパクトですが、その分標本との距離が近いので、大きさを実感しやすいのも特徴の一つです。

その他にも最小ナウマンゾウと分かった標本や、関東初産出だったバイソンなど、佐野市はさまざまな化石が盛りだくさんです。

実際の写真は6・7ページで紹介しています

佐野の産業を支える 石灰石鉱山

化石が見つかる石灰岩はただの石ではありません。私たちの生活を支える大切な資源です。



石灰石？ 石灰岩？

石灰岩を工業的に利用する時、石灰石と呼ばれます。呼び方が変わるだけです。

石灰岩を鉱山で採掘し工場加工 一体どんな製品になるのでしょうか？

身近なところでは、石灰岩を砕いて作った粉は校庭でライン引きの粉として使われたり、チョークとして使われたりしています。また、道路を整地する際に敷き詰める砕石として使われたり、電車の線路の下に敷かれている石（バラストと呼ばれます）にも使われたりします。他にもよく使われているところでは、石灰岩を焼いて砕いて石こうなどと混ぜ、コンクリートの原料のセメントに加工されています。

製鉄に重要な役割を

製鉄にも石灰岩は、なくてはならないものです。石灰岩を焼いて水で反応させて作った消石灰は、鉄の原料の鉄鉱石から不純物を取り除く役割をします。また、消石灰で取り除いた不純物もセメントに再利用できますので、一石二鳥です。

肥料や消毒、サプリメントにも

それ以外にも、石灰肥料として、野菜の生産量増加に貢献したり、農場消毒用として、家畜が健康に過ごすのを助けたりしています。主成分がカルシウムなので、サプリメントや食品用に加工され、陰ながら私たちの食卓をも支えてくれているのです。



葛生化石館に行ってみよう



葛生化石館は佐野市葛生地域にある、佐野市立の博物館です。
佐野市内で見つかった化石や岩石、自然の生き物などを紹介しています。

葛生化石館では、古生代ペルム紀の豊富で多彩な化石とともに新生代の動物たちの化石を収集し、各時代の理解につながる展示をしています。

- ▶住所 佐野市葛生東1-11-15
- ▶休館日 毎週月曜日（祝日の場合は開館）
祝日の翌日（土・日曜の場合は開館）
年未年始
- ▶開館時間 9:00~17:00
- ▶入館料 無料
- ▶問合せ 葛生化石館 ☎86-3332



Fossil Experts

化石のスペシャリスト

葛生化石館の職員、奥村よほ子さんは化石の専門家（学芸員）として日々、化石の研究をしています。

東京都調布市出身の奥村さんは、幼い頃から生物が好きで、毎月のように博物館に足を運んでいたそうです。高校生になると、はるか昔に存在していた生物に興味を持ち、化石の研究をしたいとの思いから筑波大学へ進学。古生物学を専攻し、夢である学芸員の道に向かって進み始めました。

そして大学院に進み2年が経過するとき、葛生化石館で学芸員の職員募集を見かけ、すぐに応募を決めました。葛生の地名は化石を学ぶ中で何度も見かけていたそうです。

旧葛生町で葛生化石館の学芸員として2004年度に採用にされ、佐野に移住し、葛生の化石の魅力を伝え続けています。

なんとその間に、葛生の地で5種類もの新種の化石の発見に携わっています！

化石館入口で
ティラノサウルスが
お出迎え！



見
か
け
た
ら

声
を
か
け
て
ね
♪



葛生化石館学芸員
奥村 よほ子 さん

